

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 2月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	2073200178		
法人名	特定非営利活動法人 小布施町シニアの会		
事業所名	ヒューマンヘリテージ小布施		
所在地	長野県上高井郡小布施町大字北岡字松葉344 (電話) 026-247-1070		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年2月12日	評価確定日	平成20年3月10日

【情報提供票より】(平成20年 2月 4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 3月 16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,980 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	有 ( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(115,500円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	42 円
	または1日当たり		842 円	

(4) 利用者の概要(平成20年 2月 4日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護 1	1	要介護 2	3			
要介護 3	4	要介護 4	1			
要介護 5	0	要支援 2	0			
年齢	平均	86 歳	最低	77 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・岡野医院	・新生病院	・県立須坂病院
---------	-------	-------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは平成17年3月に開設された。北信五岳が一望でき、ホームの周りは小布施の名産品の栗の木が並んで植えられている。収穫の秋には飛切りの栗の収穫があり、毎日料理され、食卓に登場しているという。そんな暖かな情景の秋に訪問したかったと羨ましく思った。色々な事情が重なり、管理者・職員の異動が頻繁に行われ、平成19年12月より新しい管理者の下、再出発した。「終末ケアを目指し安心できる最善のケアを目指す」という方針を家族のもとへも送っている。新しい体制で数ヶ月を経過した現段階での外部評価はなかなか難しいが、調査者の意見などを素直に聞き入れる姿勢と、あらゆる情報を取り入れ実行しようとする積極的な姿勢を窺うことができた。廊下に掲げられていた「失敗は恐るな」という言葉を糧に、新体制での「ホームの顔」が出来上がることを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) ホーム便りについては復刊している。緊急時の応急手当についても看護師経験者の採用等により対応ができる体制となっている。研修の受講についても積極的に取り組まれており、共有化も図られている。市町村への働きかけやホーム機能の地域への還元についても徐々に取り組みが進んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)  全職員が自己評価を初めて経験した。自己評価することにより多くのことを気づき、また介護の世界の奥の深さを再認識させられた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)  現時点では運営推進会議を活用できていない。管理者は、ホームの現状や消防体制、入居者の地域行事への参加、重度化についての議題を決め、今後話し合いを持ちたいという意向である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 新管理者になってから、入居者家族よりの要望や意見などを直接聞く機会が増えた。入居者家族からは、今までは言えなかったことなども苦情として伝えられた。現在は、ホームとしての反省点を必ず家族に伝えて行くようにしている。要望や意見等は職員にも伝えられ、共有している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地区の学校・保育園の行事に参加し、入居者も楽しんでいる。新体制になってから地域に対して生活サポートの提案をしている。4つの項目に分け、「介護何でも相談所」・「高齢者・障害者のいきいきサロン」・「子育て安心サポートサロン」・「福祉体験学習教室」というように提案している。地域からもホームが住民との交流の場として期待されている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念が玄関に掲げられているが、地域密着型サービスとしての見直しまで到っていない。	○	職員全体で現在の運営方針をもとに理念を新に作成してみてもどうか。理念をもとに全職員が同じ方向に向き、入居者に寄り添い、地域の中で充実した生活を送ることができるように願う。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員一人ひとり、現在の理念を自分なりの言葉として理解はしている。	○	全職員が理念を意識するためにも、朝礼・定例会等で伝え、実践に結び付くようにされたら良いのではないだろうか。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区費の支払い・ゴミ当番・回覧板を回してもらするなど隣組として参加している。新年度より老人会の行事にも参加出来るように現在働きかけている。学校・保育園の行事に招待され参加している。ホームより地域に対して生活サポートの提案を発信している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めて自己評価をする職員が多く、時間をかけ、丁寧に全職員参加で行われた。自己評価をすることで気づきの点が沢山浮かび上がり、有意義な勉強の時間にもなった。		

ヒューマンヘリテージ小布施

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催されているが、内容等の議事録が詳しく作成されていない。会議の経過も職員へ伝達するようなシステムになっていない。今後は地域密着型サービスとして地域の方に役員を委嘱していきたいと考えている。	○	毎回テーマを決め、委員の方々の意見を聞く必要があると思われる。委員会での意見などは必ず全職員に伝え、改善にむけた具体的な取り組みに活かしていただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	来年度に短期利用共同生活介護の指定を受けたいということで町に相談している。町のほうでも期待をしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族会が2ヶ月に1回開催され、入居者との昼食会を兼ねて交流を図っている。小遣い帳も作られている。ホームの「小布施便り」が2ヶ月に一回の予定で家族のもとへ送られている。法人の「ヒューマンヘリテージ便り」には法人内各事業所の行事予定が記され、月に1回発行されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	最近家族より日常生活のことなど、質問が多く聞かれるようになった。職員は今後も家族との関係を強く深めて生きたいと考えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今まではやむを得ない事情により職員の異動が行われており、家族の方々に話しをするまでに到っていなかったが、徐々に家族会で報告するようになってきた。生活している入居者にとって馴染みの関係作りが出来にくかったので、家族にも一抹の不安があったのではないかとと思われる。	○	法人とホームの努力で職員の異動は最小限にとどめ、入居者との馴染みの関係作りをしていただきたい。入居者にとってのやすらぎのある生活には職員との密接なかわりが重要ではないだろうか。

ヒューマンヘリテージ小布施

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新体制の下、研修参加は積極的に行われている。研修受講者は定例会等で報告をし、全職員で研修内容の共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム間のネットワークに参加している。ネットワークサミットへも参加した。グループホーム間の情報交換もしており、講習会への参加もしている。現在、他のグループホーム・宅老所への訪問見学を打診中である。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には家族と共に訪問していただき、入居者と一緒にお茶を飲んだり、ホーム内部も見てもらい雰囲気を感じてもらっている。空きが出た時に連絡するように待機登録をしていただいている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が感謝の言葉やねぎらいの気持ちを職員に伝えたり、そうした様子を感じた時に入居者から力をもらっていると伺った。職員も、一人の人間として、相手を思いやる気持ちを見習わなければならないということを強く感じている。		

ヒューマンヘリテージ小布施

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に入居者の「基礎情報」が家族の聞き取りなどから作成されている。今後センター方式に移行する予定で現在準備中である。	○	ホームとして重度化になっても看るということから、毎日の生活で知り得た情報を書き足していくことが必要ではないかと思われる。入居者との会話、家族との会話、生活の観察が更に必要と思われる。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を聞いて計画作成担当者がケアプランを作成し、ケース会議の時に全員に知らせている。入居者全員のケアプランが見れるようなホルダーを作成して活用を図っている。毎日の連絡ノートに重要なことを連絡するようなシステムができている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6ヶ月に一回の見直しをしている。心身の状況に変化があった時は随時行っている。今後は現場職員のレベルアップを図り、職員の意見を交えながら作成できるようにする意向である。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	役所の手続き代行、病院への付き添い、理美容院への出張依頼などを行っている。		



ヒューマンヘリテージ小布施


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時のかかりつけ医を継続する方もおり、家族よりの依頼でホームの主治医への変更をした方もいる。家族が訪問され一緒に通院される方もおり、職員の付き添いで受診に行かれる入居者もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム便りに「今後の介護方針」として家族の方々へ連絡している。。終末ケアを行うため、職員の中に看護師資格者が3名いる。また、医療機関等での看取り経験者もいる。県よりの「これからの終末ケア」の情報などをもとに、勉強していく意向である。	○	ホームの方針は家族へ伝達されたが、ホーム内部での職員の研修はまだ行われていない。マニュアル作り、家族との話し合い、医療機関との連携など一つ一つ進めて行くことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入居者に対し優しく穏やかな接し方をしている。時には敬語を使いながら会話をしている。契約書にも個人情報の取り扱いの項目があり、契約時に説明をしている。ボランティアや外部よりのお客様を受け入れることも家族に了解を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはおおよそ決められているが決定ではない。朝食は3名くらいからスタートし、遅い方は10時くらいに食べる方もいる。職員は入居者の状態に合わせて行動している。		

ヒューマンヘリテージ小布施

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事担当者が1週間の献立を作成している。入居者は色々な役割を持ち食事作りに参加している。リビングとダイニングキッチンが並んでおり、食事の支度に関わってなくても、材料・調味料の匂いがしてきて食欲をそそられる。食材料費は低料金ではあるが、工夫された献立であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室内も床暖房になっているので入居者は北信州の冬場の寒さでも快適に入浴できる。入居者の希望があれば毎日でも入浴できる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度の手伝い、夏場の畑の管理、庭の草取りなど各入居者の出来る範囲で活動している。体操も日課になっている。塗り絵などの楽しみごとも行っている。近隣のバラ公園・お雛祭りなどの見学に出かけたり、外食も楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はコースを決めて散歩している。毎日の食材の買い出しに入居者2人位と出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。職員が急用の時などは入居者の安全を考え、短時間、鍵をかけることがある。万が一のために、玄関に通じる廊下部分を映し出すモニターが取り付けられている。		

ヒューマンヘリテージ小布施

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事務室や廊下に非常時の誘導順路・連絡方法が張り出されている。電話による非常召集の訓練も行っている。	○	管理者の異動や退職で、消防署等との連携した訓練はまだ行われていない。入居者の安全に関係することであるので、全員で訓練をすることを強く希望する。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量は均一に盛られているが、男性の入居者にはさりげなくおかわりをしてもらうなどしていた。同じ料理を入居者によってはやや細かくするなど工夫して食べやすくしている。職員の見守りにより、水分の摂取についても確保されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの外観と室内がマッチされた作りになっている。床暖房になっており、適度な温かさに設定されている。リビングなどの飾りは派手でなく、落ち着いた感じになっている。食堂のテーブルを囲んだり、リビングのソファに腰掛けたり、入居者は思い思いの場所で過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、トイレ・洗面所が設置されている。入居前までの生活用品が持ち込まれ、その人らしい居室作りがされている。各居室には温度計と湿度計が備え付けられている。		

※  は、重点項目。